



## 「口腔機能発達不全症」。 気づいているけれど、踏み込めないあなたへ

月刊「歯界展望」別冊  
**子どもの口腔機能発達不全症 UPDATE**  
 口腔習癖・食べ方・食生活指導を含めたアプローチ  
 土岐志麻・新谷誠康 編著

A4判変型/176頁/定価6,930円(本体6,300円+税10%) / 医歯薬出版(2023年5月)

右を見ても左を見ても、口をポカンと開けてよだれを垂らしているお年寄り。こんな光景を目にしたとき、あなたは何を思いますか？

「リハビリテーションをしなきゃ」でしょうか？ もしも、口腔機能を正常に獲得できないままお年寄りになっていたとしたら……。そう！ リハビリテーションではなく「ハビリテーション(能力の獲得)」が必要になります。

唾液を嚥下できない子ども、反対に唾液が出ない子ども、「小顔だから歯並びが悪くて」と、すこし誇らしそうに話す保護者と日々接していると、口腔機能が育っていない子どもたちのお年寄りになった姿を想像し恐ろしくなります。

「口腔機能発達不全症」という病名(疾病名)が誕生したことから、口腔機能が正常に育っていない子どもの増加を伺い知ることができません。しかし、深刻な状況は理解できても、いざ自分が子どもたちを救うには何ができるのだろう……。そこで手にして欲しいのが本書です。

まずは本書の「巻末付録」を活用しましょう。案ずるより産むが易いです。CHAPTER 1(口腔機能発達の概要)は後にして、CHAPTER 2から読みはじめるのもお勧めです。口腔機能発達不全症をどのように診断・評価・対応すべ

きかが評価項目ごとに示されています。

そして、何より知りたい指導方法が示されているのがCHAPTER 3です。アプローチの実際について触れられています。CHAPTER 4では、実際のケースから何に重きを置いて支援すべきかが書かれています。「支援あつての指導」の大切さがわかります。最後のCHAPTER 5では、さまざまな職種の臨床経験からみた口腔機能発達不全症について書かれています。多面的に捉えた口腔機能発達不全症を知ること、より疾病への理解が深まります。

口腔機能が正常に発達していない子どもたちへのアプローチは理解できた。もう一步踏み込んで、正常に発達する子どもを育てるためには……。CHAPTER 1,ここに答えがあります。

本書のどこから読みはじめても、最後はここCHAPTER 1へ戻って欲しい。ここには「これからは、『むし歯予防のための定期健診』ではなく、口腔機能発達を含めた『年齢に応じた口腔の健康指導を行うための定期健診』にすることが必要」と、書かれています。

子どもたちの将来の姿を変えるのは「今」です。そして、歯科衛生士の「私たち」です。

本書があれば大丈夫、動きはじめてみましょう。